

朱本著
老成院事務修訂意見

勅令案

關東都督府官制

第一條 關東州ニ關東都督府ヲ置ク

第二條 關東都督府ニ關東都督ヲ置ク

都督ハ關東州ヲ管轄シ並南滿洲ニ於ケル鐵

道線路ノ保護及取締ノ事ヲ掌ル

都督ハ南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三條 都督ハ親任トス陸軍大將又ハ陸軍中將

ヲ以テ之ニ充テ

第四條 都督ハ部下軍隊ヲ統率シ外務大臣ノ

監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス

第五條 都督ハ特別ノ委任ニ依リ清國地方官憲

トノ交渉事務ヲ掌理ス

第六條 都督ハ軍政及陸軍軍人軍屬ノ人事ニ

關シテハ陸軍大臣、作戰及動員計畫ニ關シテハ

參謀總長、軍隊教育ニ關シテハ教育總監ノ

區處ヲ承ク

第七條 都督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ

都督府令ヲ發シ之ニ禁錮一年以下又ハ罰金

二百圓以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

特別ノ委任
ハ特別ノ委任
トシテ之ニ充テ

第八條 都督ハ安寧秩序ヲ保持スル為臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ前條ノ制限ヲ超スル罰則ヲ附シタル命令ヲ發スルコトヲ得
前項ニ依リ發シタル命令ハ發布後直ニ外務大臣ヲ經由シテ勅裁ヲ請フヘシ若シ勅裁ヲ得サルトキハ都督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第九條 都督ハ其ノ管轄区域内ノ防備ノ事ヲ掌ル

第十條 都督ハ其ノ管轄区域内ノ安寧秩序ヲ保持シ又ハ鐵道線路ノ保護及取締ヲ行フ為必要ト認ムルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ直ニ外務大臣、陸軍大臣及參謀總長ニ之ヲ報告スヘシ

第十一條 都督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十二條 都督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任文官ノ進退ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經

テ之ヲ上奏ニ判任文官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十三條 都督ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ叙位叙勳ヲ上奏ス

第十四條 都督ハ所部ノ文官ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ係ルモノ及奏任官ノ免官ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ上奏ス ~~其ノ他ノ事務~~

第十五條 都督府ニ都督官房ヲ置ク
都督官房ニ副官一人及秘書官專任一人ヲ置キ機密ニ關スル事務ヲ掌ラシム

副官ハ陸軍佐尉官ヲ以テ之ニ充ツ
秘書官ハ奏任トス

第十六條 都督府ニ民政部及陸軍部ヲ置ク
陸軍部ニ關スル條例ハ別ニ定ム

第十七條 民政部ハ行政司法ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第十八條 民政部ニ左ノ四部及一署ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ都督之ヲ定ム

庶務部
警務部

部
陸軍部
民政部
警務部
庶務部
事務ノ分掌ハ都督之ヲ定ム

財務部
土木部
監獄署

第十九條 關東州ヲ三區ニ分チ各區ニ民政署ヲ置リ其ノ位置、名稱及管轄區域ハ都督之ヲ定ム

第二十條 民政署及監獄署ノ事務ヲ分掌セシムル為須要ノ地ニ民政支署及監獄支署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ都督之ヲ定ム

第二十一條 都督府ニ左ノ職員ヲ置ク

民政長官	一人	勅任	1
參事官	二人	奏任	0
事務官	六人	奏任	8
民政署長	三人	奏任	5
技師	十七人	奏任	4
警視	六人	奏任	3
典獄	一人	奏任	3
翻譯官	三人	奏任	3
屬			

11-117111
11-117111

警 部
技 手
監 吏
監 獄 醫
翻譯 生

專任二百二十人判任

160

第二十二條 民政長官ハ都督ヲ佐ケ民政~~部~~事務ヲ總理ス

第二十三條 參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ又ハ各部ノ事務ヲ助ク

第二十四條 事務官ハ各部ノ長ト爲リ又ハ各部

ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第二十五條 民政署長ハ都督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ施行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第二十六條 民政署長ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ民政署令ヲ發シ之ニ十圓以内ノ罰金又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二十七條 民政署長ハ管内ノ靜謐ヲ維持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ都督ニ具狀スヘシ

但レ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ其ノ附近
ノ守備隊長ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得

第二十八條 民政署長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ判
任官ノ進退ヲ都督ニ具状ス

第二十九條 民政署長ハ署中處務ノ細則ヲ設ク
ルコトヲ得

第三十條 民政署長事故アルトキハ上席ノ官吏其
ノ職務ヲ代理ス

民政署長ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ
臨時代理セシムルコトヲ得

第三十條 技師ハ上官ノ命ヲ兼ケ技術ヲ掌ル

第三十一條 警視ハ上官ノ命ヲ兼ケ警察ニ関スル事務ヲ掌理ス

第三十二條 典獄ハ監獄署ノ長ト爲リ上官ノ命ヲ兼ケ監獄事務

ヲ掌理ス

第三十三條 翻譯官ハ上官ノ命ヲ兼ケ翻譯通辨ヲ掌ル

第三十四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ兼ケ庶務ニ従事ス

第三十五條 警部ハ上官ノ指揮ヲ兼ケ警察ニ関スル事務ニ従

事シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ兼ケ技術ニ従事ス

第三十七條 監吏ハ監獄署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ兼ケ監獄ノ戒護

及庶務ニ従事ス

第三十八條 監獄醫ハ監獄署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ兼ケ醫務ニ

従事ス

第三十九條 翻譯生ハ上官ノ指揮ヲ兼ケ翻譯通辨ニ従事ス

第四十條 民政支署長ハ警視屬スハ警部、監獄支署長ハ

監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第四十一條 民政支署長事故凡トキハ上席官吏其ノ職務ヲ代理ス

第四十二條 都督府ニ巡查及看守ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡查及看守ノ定員ハ都督之ヲ定ム

附則

○
本令ハ明治三十九年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

6-0005

0116

關東都督府郵便電信局官制

第一條 關東都督府郵便電信局ハ關東都督府民政部ニ屬シ郵便、電信及電話ニ関スル事務ヲ掌ル

第二條 郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置リ

局長

一人

通信事務官

專任 三人 奏任

通信事務官補

專任 六人 奏任

通信技師

專任 四人 奏任

通信書記

通信技手

專任 五百六人 判任

通信書記補

第三條 局長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ兼ケ局務ヲ掌理ス

ヲ掌理ス

第四條 通信事務官ハ局長タル者ヲ除ク外上官ノ命ヲ兼ケ局務ヲ分掌ス

ヲ分掌ス

第五條 通信事務官補ハ上官ノ命ヲ兼ケ局務ヲ掌ル

第六條 通信技師ハ上官ノ命ヲ兼ケ技術ヲ掌ル

第七條 通信書記及通信書記補ハ上官ノ指揮ヲ兼ケ局務ニ従事ス

従事ス

第八條 通信技手ハ上官ノ指揮ヲ兼ケ技術ニ従事ス

第九條 郵便電信局ノ事務ヲ分掌セシムル爲須要ノ地ニ郵便電信支局ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ關東都督之ヲ定ム

第十條 支局長ハ部内ノ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ
附 則

本令ハ明治三十九年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

6-0005

0118

關東都督府法院令

第一條 關東都督府法院ハ關東都督直屬之民事刑事ノ

裁判ヲ爲スコトヲ掌ル

第二條 關東都督府法院ヲ分テ地方法院及高等法院各一

箇所トス

關東都督ハ必要ニ應シ地方法院出張所ヲ置クコトヲ得

第三條 地方法院ハ民事刑事ノ始審及非訟事件ノ事務ヲ

行フ

第四條 高等法院ハ終審トシテ地方法院ノ裁判ニ對スル

上訴ヲ審理ス

第五條 各法院ニ判官專任五人ヲ置ク

判官ハ奏任トス但シ高等法院長タル判官ハ之ヲ勅任トナス

コトヲ得

第六條 各法院ニ院長ヲ置ク上級判官ヲ以テ之ニ充ツ

院長ハ院内一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

高等法院ノ院長ハ地方法院ノ行政事務ヲ監督ス

院長事故アルトキハ次級判官其ノ職務ヲ代理ス

第七條 地方法院ハ單獨判官ヲ以テ總テノ事件ヲ審理ス

第八條 高等法院ハ判官三人ヲ以テ組織シタル部ニ於テ總テノ

事件ヲ審理シ上級判官ヲ裁判長トス



第九條 各法院ニ檢察官專任一人ヲ置リ奏任トス

檢察官ハ司法警察官ヲ指揮監督シ刑事訴追ヲ為シ

其ノ裁判ノ執行ヲ指揮監督ス

高等法院ノ檢察官ハ地方法院ノ檢察官ヲ指揮監督ス

地方法院ニ於テハ警視廳ハ警部ヨリテ檢察官ノ職務ヲ執ラシ

ムルコトヲ得

第十條 高等法院ニ通譯官專任一人ヲ置ク奏任トス

各法院ニ通譯生ヲ置ク判任トス其ノ定莫ハ通譯ニ專任五人トス

通譯官及通譯生ハ通譯ニ従事ス

通譯官及通譯生ハ前項外上官ノ命ヲ兼テ翻譯ニ従事ス

第十一條 各法院ニ書記ヲ置ク判任トス其ノ定莫ハ通譯ニ專任

二十人トス

書記ハ民事刑事ノ審理ニ関スル準備ヲ為シ、調書ヲ

作り及一切ノ訴訟記録ヲ整理保管ス

書記ハ前項外上官ノ指揮ヲ兼テ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ明治三十九年 月 日ヨリ之ヲ施行ス



関東都督府職員官等給與令

第一條 関東都督府高等文官ノ官等ハ別表高等文官官等表ニ依ル

第二條 関東都督ノ年俸六千圓、民政長官ノ年俸三千五百圓又ハ四千圓、勅任判官ノ年俸三千圓又ハ三千五百圓トス其ノ他ノ高等文官ノ俸給別表高等文官俸給表ニ依ル

第三條 同一官職ニシテ官等ニ依リ其ノ俸給ヲ異ニスルモノハ別表高等文官官等相當俸給表ニ依ル

第四條 技術官ハ事務ノ繁閑ニ依リ俸給最低額以下ヲ給スルコトアルヘシ

第五條 関東都督府文官ニ加俸ヲ支給ス其ノ額ハ俸給額十分ノ三ニ相當スル金額トス

滿三年間関東都督府文官ヲ勤績シタル者ハ前項ノ金額ノ外更ニ俸給額十分ノ一ニ相當スル金額ヲ増給シ滿三年以上ノ者ニハ同年ヲ加フル毎十分ノ一ヲ増給シ加俸金額俸給額十分ノ五ニ至リテ止ム

加俸ノ支給方ハ俸給ノ例ニ依ル

第六條 本令ニ規定セサルモノハ特別ノ規定有場合ヲ除ク外高等文官等俸給令及判任官俸給令ニ依ル

附則

本令ハ明治三十九年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前滿洲ニ在勤ニタル文官ニシテ引續キ關東都督府文
官タル者ハ従前ノ勤續年月數ヲ第五條ノ勤續年數ニ通算ス

(別表)

高等文官官等表

	親任	勅任		奏任						
		一等	二等	三等	四等	五等	六等			
		民政長官	同上						七等	
技師									八等	
秘書官										
民政署長										
事務官										
参事官										

		判官								
		檢察官								

6-0005

高等文官官等相當俸給表	官名	官等
参事官	一級	三
事務官	二級	四
政務官	三級	五
民政局長	四級	六
秘書官	九級	七

判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	一人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	二人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	三人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	四人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	五人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	六人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	七人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	八人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	九人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	十人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	十一人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	十二人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	十三人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	十四人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	十五人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	十六人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	十七人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	十八人百級
判官	通譯官	典獄	警視	秘書官	民政局長	事務官	参事官	十九人百級
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	二十人百級

高等文官俸給表

關東都督府職員特別任用令

第一條

關東都督府事務官ニシテ海外事務ニ従事スル者ハ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ左ニ掲ケル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

一 外交官、領事官又ハ貿易事務官ノ職

ニ在ル者

ニ外交官又ハ領事官タルノ資格ヲ有スル者

前項ニ依リ任用シタル事務官ニシテ外交官、領事官、貿易事務官又ハ外務省高等官ニ

轉任シ又ハ轉任セムトスル場合ニ於テハ關東都督府ノ在職ヲ以テ在外公館ノ在職ト看做ス

第二條 關東都督府警視ハ滿三年以上警察事務ニ従事シ現ニ判任官四級俸以上ノ官職ニ在ル者ニ限リ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

第三條

第三條

關東都督府典獄及監吏ノ任用ニ關シテハ典獄及看守長特別任用令ノ規定ヲ準用ス但シ監吏ニ關スル考查ノ方法及

第三條

關東都督府典獄及監吏ノ任用ニ關シテハ典獄及看守長特別任用令ノ規定ヲ準用ス但シ監吏ニ關スル考查ノ方法及



試験科目ハ関東都督之ヲ定ム

第四條 関東都督府警部ノ任用ニ関シテ

ハ警部消防士特別任用令ノ規定ヲ準用
ス但シ考試委員ノ考查ノ方法及試験科
目ハ関東都督之ヲ定ム

第五條 関東都督府通信事務官及通

信事務官補ノ任用ニ関シテハ通信事
務官通信事務官補特別任用令ニ通
信書記ニ関シテハ通信屬通信書記
補ニ関シテハ通信手ノ任用ニ関スル規

定ヲ準用ス但シ通信書記補ノ試験規
則ハ関東都督之ヲ定ム

附則

関東都督府警視ハ本令施行ノ際ニ限リ
関東州ニ於ケル警部事務ニ従事シ現
ニ判任官三級俸以上ノ官職ニ在ル者
日文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之
ヲ任用スルコトヲ得



關東都督府法院判官及檢察官
任用令

關東都督府法院判官及檢察官ハ裁
判所構成法ニ依リ判事又ハ檢事タル
資格ヲ有スル者ハ中ヨリ之ヲ任用ス

6-0005

0126

關東都督祕書官ノ任用年限及
官等ニ關スル件

關東都督祕書官ノ任用年限及官等ニ
關シテハ文官任用令ノ文官年限令並ニ高
等官官等俸給令第七條及第八條ノ
規定ヲ適用セズ

關東州ニ於ケル諸般ノ成規ハ別段ノ規
定ヲ設ケル迄當分ノ内從前ノ例ニ依
ル但シ租稅其ノ他ノ收入及其ノ支出
ニ關シテハ會計検査院ノ検査ヲ經ル
コトヲ要ス

附則

本令ハ明治三十九年 月 日ヨリ之ヲ施行
ス

原案ニ對スル修正要項

一、遼東租借地統治令ハ之ヲ制定スルノ必要ナキヲ以テ廢案トナシ別ニ臨時緊急ノ場合ニ於テ勅令ニ代ルヘキ命令ヲ發スルノ權限ヲ都督ニ附與スルノ規定ヲ都督府官制中ニ規定セルコト

二、都督府令ニ附スル罰則ノ程度ヲ高メタルコト

三、關東都督府民政廳官制ヲ關東都督

府官制中ニ含攝シ關東都督府官制中ヨリ郵便電信局官制ヲ分離シタルコト

四、南滿州鐵道沿線ノ警察事務ヲ都督府警察官吏ノ管掌ニ屬セシムルカ爲之ニ要スル警視四人及警部三十人ヲ増員シタルコト

五、右ノ増員ヲ計算外トシテ提案ニ對シ都督府官制ニ於テ高等官一人ヲ減シ判任官三十人ヲ増シ郵便電信局官制ニ於

高等官一人、或シ法院令ニ於テ高等官

九人及判任官十一人ヲ咸セリ

六、法院判官及検察官ノ任用ニ関スル規定
定リ法院令中ヨリ分離シテ特別ノ規定
ト為セルコト

七、臺灣總督府職員ノ例ニ依ヒ内地ノ
奏任文官ニ比シ都督府奏任文官ノ俸
給額ヲ一階高メタルコト

八、都督秘書官ノ任用分限及官等ニ関ス
ル規定ヲ設ケタルコト

九、軍政ヨリ民政ニ移ル會計上ノ経過規定
ヲ改メテ一般的ノ経過規定トナセルコト

ト

官報

第六千九百二十七號

明治三十九年八月一日

水曜日

印刷局

勅令

外務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 子爵林 董

勅令第九十六號
外務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
朕樞密顧問官ノ諮詢ヲ經テ關東都督府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
軍大臣 寺内正毅
外務大臣 子爵林 董

勅令第九十六號

關東都督府官制

- 第一條 關東都督府ニ關東都督ヲ置ク
- 第二條 關東都督府ニ關東都督ヲ置ク
都督ハ關東州ヲ管轄シ並南滿洲ニ於ケル鐵道線路ノ保護及取締ノ事ヲ掌ル
- 第三條 都督ハ南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ監督ス
- 第四條 都督ハ關東都督府ニ陸軍大將又ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 都督ハ部下軍隊ヲ統率シ外務大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス
- 第六條 都督ハ軍政及陸軍軍人軍屬ノ人事ニ關シテハ陸軍大臣、作戰及動員計畫ニ關シテハ參謀總長、軍隊教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ承ク
- 第七條 都督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ都督府令ヲ發シ之ニ禁錮一年以下又ハ罰金二百圓以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
- 第八條 都督ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メ時緊要ヲ要スル場合ニ於テ前條ノ制限ヲ超ニル罰則ヲ附シタル命令ヲ發スルコトヲ得
- 第九條 前項ニ依リ發シタル命令ハ發布後直ニ外務大臣ヲ經由シテ勅裁ヲ請フヘシ若シ勅裁ヲ得サルトキハ都督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ
- 第十條 都督ハ其ノ管轄區域内ノ防備ノ事ヲ掌ル
- 第十一條 都督ハ其ノ管轄區域内ノ安寧秩序ヲ保持シ又ハ鐵道線路ノ保護及取締ヲ行フ爲メ必要ト認ムルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得
- 第十二條 前項ノ場合ニ於テハ直ニ外務大臣、陸軍大臣及參謀總長ニ之ヲ報告スヘシ
- 第十三條 都督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スルコトヲ得
- 第十四條 都督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任又ハ退任ノ進退ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任文官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス
- 第十五條 都督ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ敘位敘勳ヲ上奏ス
- 第十六條 都督ハ所部ノ文官ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ係ルモノ及委任官ノ免官ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス

第十五條 都督府ニ都督一人居シ之ヲ置ク
都督官房ニ副官一人及、書記官一人ヲ置キ機密ニ關スル事務ヲ掌ラシム
副官ハ陸軍佐尉官ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 都督府ニ民政一ノ職置キ之ヲ定ム
陸軍部ニ關スル條例ハハ之ヲ定ム

第十七條 民政部ハ軍事行政ヲ除ク外一切ノ行政事務ヲ掌ル

第十八條 民政部ニ左ノ四課及一署ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ都督之ヲ定ム
庶務課
警務課
財務課
土木課
監獄署

第十九條 關東州ニ三區ニ分テ各區ニ民政署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ都督之ヲ定ム

第二十條 民政署長ハ各區ニ分テ之ヲ掌ル

第二十一條 都督府ニ左ノ職員ヲ置ク
民政長官 一人
參事官 一人
事務官 一人
技師 一人
書記官 一人
庶務官 一人
警務官 一人
財務官 一人
土木官 一人
監獄官 一人
翻譯官 一人
技師 一人
庶務官 一人
警務官 一人
財務官 一人
土木官 一人
監獄官 一人
翻譯官 一人

第二十二條 民政長官ハ都督ヲ佐ケ民政部ノ事務ヲ總理ス

第二十三條 參事官ハ都督ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ又ハ各課ノ事務ヲ助ク

第二十四條 事務官ハ各課ノ長ト爲リ又ハ各課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第二十五條 民政署長ハ都督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ施行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第二十六條 民政署長ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依テ管內一般又ハ其ノ一部ニ民政署令ヲ發シ之ニ十圓以内ノ罰金又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二十七條 民政署長ハ管內ノ淨謫ヲ維持スル爲兵力ヲ要スル、キハ之ヲ都督ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ其ノ附近ノ守備隊長ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得

第二十八條 民政署長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ進退ヲ都督ニ具狀ス

第二十九條 民政署長ハ署中職務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第三十條 民政署長事故アルトキハ上席ノ官吏其ノ職務ヲ代理ス

民政署長ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第三十一條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第三十二條 警務官ハ上官ノ命ヲ承ケ警察ニ關スル事務ヲ掌ル

第三十三條 典獄官ハ監獄署ノ長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ監獄事務ヲ掌ル

第三十四條 翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯通辯ヲ掌ル

第三十五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十六條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察ニ關スル事務ニ從事シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十七條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十八條 監獄官ハ監獄署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護及庶務ニ從事シ部下ノ看守ヲ指揮監督ス

第三十九條 監獄署ハ監獄署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ警務ニ從事ス

第四十條 翻譯官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス

第四十一條 民政署長ハ警務、屬又ハ警部、監獄支署長ハ監獄ヲ以テ之ニ充ツ

第四十二條 民政署長事故アルトキハ上席官吏其ノ職務ヲ代理ス

第四十三條 都督府ニ巡查及看守ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡查及看守ノ定員ハ都督之ヲ定ム

附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

朕關東都督府郵便電信局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十九年七月三十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 子爵林 董

勅令第九十七號
關東都督府郵便電信局官制

第一條 關東都督府郵便電信局ハ關東都督府民政部ニ屬シ郵便、電信及電話ニ關スル事務ヲ掌ル

局長 一人
通信事務官 一人
通信事務官補 一人
通信技師 一人
通信書記 一人
通信技師 一人
通信書記 一人

第三條 局長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第四條 通信事務官ハ局長タル者ノ外上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第五條 通信事務官補ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第六條 通信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第七條 通信書記及通信書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ニ從事ス

第八條 通信技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條 郵便電信局ノ事務ヲ分掌セシムル爲須要ノ地ニ郵便電信支局ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ關東都督之ヲ定ム

第十條 支局長ハ部内ノ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

朕關東都督府法院令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十九年七月三十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 子爵林 董

勅令第九十八號
關東都督府法院令

第一條 關東都督府法院ハ關東都督ニ直屬シ民事刑事ノ裁判ヲ爲スコトヲ掌ル

第二條 關東都督府法院ヲ分テ地方法院及高等法院各一箇所トス

第三條 關東都督ハ必要ニ應シ地方法院出張所ヲ置クコトヲ得

第四條 地方法院ハ民事刑事ノ始審及非訟事件ノ事務ヲ行フ

第五條 高等法院ハ終審トシテ地方法院ノ裁判ニ對スル上訴ヲ審理ス

第六條 各法院ニ判官專任五人ヲ置ク

第七條 各法院ニ院長ヲ置ク上級判官ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 各法院ハ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

第九條 高等法院ハ地方方法院ノ行政事務ヲ監督ス

第十條 高等法院ハ院長ハ次級判官其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 地方法院ハ單獨判官ヲ以テ總テノ事件ヲ審理ス

第十二條 高等法院ハ判官三人ヲ以テ組織シタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審理シ上級判官ヲ裁判トス

第十三條 各法院ニ檢察官專任一人ヲ置ク奏任トス

第十四條 檢察官ハ司法警察官ヲ指揮監督シ刑事訴訟ヲ爲シ其ノ裁判ノ執行ヲ指揮監督ス

第十五條 高等法院ノ檢察官ハ地方法院ノ檢察官ヲ指揮監督ス

第十六條 地方法院ニ於テハ警視又ハ警部ヲシテ檢察官ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得

第十七條 高等法院ニ通譯官專任一人ヲ置ク奏任トス

第十八條 各法院ニ通譯生ヲ置ク判任トス其ノ定員ハ通譯トシテ專任五人トス

第十九條 通譯官及通譯生ハ通譯ニ從事ス

第二十條 通譯官ハ前項ノ外上官ノ命ヲ承ケ翻譯ニ從事ス

第二十一條 各法院ニ書記ヲ置ク判任トス其ノ定員ハ通譯トシテ專任二十人トス

第二十二條 書記ハ民事刑事ノ審理ニ關スル準備ヲ爲シ、調書ヲ作り及一切ノ事務ヲ整理保管ス

第二十三條 書記ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

朕關東都督府郵便電信局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朕關東都督府職員官等給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 子爵林 董

勅令第九十九號

關東都督府職員官等給與令

- 第一條 關東都督府高等文官ノ官等ハ別表高等文官官等表ニ依ル
第二條 關東都督府ノ年俸ハ六千圓、民政長官ノ年俸ハ三千五百圓又ハ四千圓
勅任判官ノ年俸ハ三千圓又ハ三千五百圓トス其ノ他ノ高等文官ノ俸給ハ別表高等文官俸給表ニ依ル
第三條 同一ノ官職ニシテ官等ニ依リ其ノ俸給ヲ異ニスルモノハ別表高等文官官等相當俸給表ニ依ル
第四條 技術官ニハ事務ノ繁閑ニ依リ俸給最低額以下ヲ給スルコトアルヘシ
第五條 關東都督府文官ニハ加俸ヲ支給ス其ノ額ハ俸給額十分ノ三ニ相當スル金額トス
第六條 本令ニ規定セザルモノハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外高等文官等俸給令及判任官俸給令ニ依ル
附則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前滿洲ニ在勤シタル文官ニシテ引續キ關東都督府文官タル者ハ從前ノ勤続年數ヲ第五條ノ勤続年數ニ通算ス

Table with columns for ranks (勅任, 親任, 奏任) and various official titles (高等文官俸給表, 判官, 檢察官, etc.)

Table titled '高等文官官等相當俸給表' showing salary scales for various ranks from 一等 to 十一等.

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府職員特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 子爵林 董

勅令第二百號

關東都督府職員特別任用令

- 第一條 關東都督府事務官ニシテ涉外事務ニ從事スル者ハ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ左ニ掲グル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
一 外交官、領事官又ハ貿易事務官ノ職ニ在ル者
二 外交官又ハ領事官タルノ資格ヲ有スル者
前項ニ依リ任用シタル事務官ニシテ外交官、領事官、貿易事務官又ハ外務省

高等官ニ聘任シ又ハ聘任セムトスル場合ニ於テハ關東都督府ノ在職ヲ以テ在外公館ノ在職ト看做ス
第二條 關東都督府警視ハ滿三年以上警察事務ニ從事シ現ニ判任官四級俸以上ノ官職ニ在ル者ニ限リ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得
第三條 關東都督府典獄及監吏ノ任用ニ關シテハ典獄及看守長特別任用令ノ規定ヲ準用ス但シ監吏ニ關スル方法及試驗科目ハ關東都督府之ヲ定ム
第四條 關東都督府警部ノ任用ニ關シテハ警部消防士特別任用令ノ規定ヲ準用ス但シ考試委員、考査ノ方法及試驗科目ハ關東都督府之ヲ定ム
第五條 關東都督府通信事務官及通信事務官補ノ任用ニ關シテハ通信事務官、通信事務官特別任用令、通信書記ニ關シテハ通信風、通信書記補ニ關シテハ通信手ノ任用ニ關スル規定ヲ準用ス但シ通信書記補ノ試驗規則ハ關東都督府之ヲ定ム
附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
關東都督府警視ハ本令施行ノ際ニ限リ關東州ニ於ケル警察事務ニ從事シ現ニ判任官三級俸以上ノ官職ニ在ル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府法院判官及檢察官任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 子爵林 董

勅令第二百一號

關東都督府法院判官及檢察官任用令

關東都督府法院判官及檢察官ハ裁判所構成法ニ依リ判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督秘書官ノ任用及官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第二百二號
關東都督秘書官ノ任用及官等ニ關シテハ文官任用令並高等官官等條例第七條及第八條ノ規定ヲ適用セシム

附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東州ニ於ケル諸般ノ成規ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務 大臣 子爵林 董

勅令第二百三號
關東州ニ於ケル諸般ノ成規ノ別段ノ規定ヲ設クル迄當分ノ内從前ノ例ニ依ル但シ租稅其ノ他ノ收入及其ノ支出ニ關シテハ會計検査院ノ検査ヲ經ルコトヲ要ス

附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東都督府陸軍部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
陸軍大臣 寺内正毅

勅令第二百四號

關東都督府陸軍部條例

第一條 關東都督府陸軍部ハ關東都督ノ所轄内ニ於ケル陸軍一般ニ關スル事ヲ掌ル

第二條 關東都督府陸軍部ハ左ノ各部ヨリ成ル

- 參謀部
- 副官部
- 參謀部及副官部ヲ合シテ幕僚トス
- 法官部
- 經理部
- 軍醫部
- 獸醫部

第三條 參謀長ハ關東都督ヲ補佐シ陸軍ノ機務ニ參畫シ命令ノ普及並實施ヲ監督シ關東都督府陸軍部内一般ノ業務監督ニ任ス

第四條 幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ指揮ヲ受ケ各自分擔ノ事務ヲ掌ル

第五條 法官部長ハ關東都督ニ隸シ軍事司法ニ關スル業務ヲ掌ル

第六條 經理部長ハ關東都督ニ隸シ駐衛諸部隊ノ會計經理ヲ監督シ陸軍土地建造物ノ防及鐵道ニ關シテ係ル事項並經理部士官以下ノ人事及教育ヲ統轄シ

第七條 陸軍省經理局長ノ區處ヲ受ク

第八條 陸軍省經理局長ハ陸軍大臣ニ直隸シ經理部士官以下ノ人事及教育ニ關シテハ陸軍省經理局長ノ區處ヲ受ク

第九條 經理部長ハ師團經理部管轄外ノ部隊ニ係ル會計經理ヲ總轄ス但シ駐衛部隊ノ位置ニ依リ師團經理部ヲシテ之ヲ管掌セシムルコトヲ得

第十條 軍醫部長ハ關東都督ニ隸シ駐衛諸部隊ノ衛生業務ヲ監督シ衛生部士官以下ノ人事及教育並材料ニ係ル事項ヲ統轄ス

第十一條 陸軍省醫務局長ノ區處ヲ受ク

第十二條 獸醫部長ハ關東都督ニ隸シ駐衛諸部隊ノ軍馬衛生業務ヲ監督シ獸醫部士官以下ノ人事及教育並獸醫材料蹄鐵ニ關スル事項ヲ統轄ス但シ陸軍省軍務局長ノ區處ヲ受ク

第十三條 各部長ヨリ關東都督ニ具申スヘキ事項ハ豫メ參謀長ニ開陳シ其ノ承認ヲ受クベキモノトス

第十四條 法官部經理部軍醫部及獸醫部部員ハ當該部長ノ命ヲ受ケ各自擔任ノ職務ニ服ス

第十五條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督祕書官ノ任用及官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第二百二號
關東都督祕書官ノ任用及官等ニ關シテハ文官任用令並高等官官等俸給令第七條及第八條ノ規定ヲ適用セシム

附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東州ニ於ケル諸般ノ成規ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 子爵林 董

勅令第二百三號
關東州ニ於ケル諸般ノ成規ノ別段ノ規定ヲ設ケル迄當分ノ内從前ノ例ニ依ル但シ租稅其ノ他ノ收入及其ノ支出ニ關シテハ會計検査院ノ検査ヲ經ルコトヲ要ス

附則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東都督府陸軍部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月三十一日
陸軍大臣 寺內正毅

勅令第二百四號
關東都督府陸軍部條例

第一條 關東都督府陸軍部ハ關東都督ノ所轄内ニ於ケル陸軍一般ニ關スル事ヲ掌ル

第二條 關東都督府陸軍部ハ左ノ各部ヨリ成ル

參謀部

副官部

參謀部及副官部ヲ合シテ幕僚トス

經理部

軍醫部

獸醫部

第三條 參謀長ハ關東都督ヲ補佐シ陸軍ノ機務ニ參畫シ命令ノ普及並實施ヲ監督シ關東都督府陸軍部内一般ノ業務監督ニ任ス

第四條 幕僚ノ各將校及同相當者ハ參謀長ノ指揮ヲ受ケ各自分擔ノ事務ヲ掌ル

第六條 中後期試驗科目ノ部第五產科學ノ次ニ第六衛生學ヲ加シ第六六ヲ第七ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス

告示

大藏省告示第八百十四號
明治三十九年九月一日ヨリ同月三十日マテ稅關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル内外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム

但表所掲ノ外國貨幣ト日本金貨トノ比較ハ從前ノ通

明治三十九年八月廿日 大藏大臣 法部博士阪谷芳郎

南陽電報所
宛地月日

略
印
セ
ス
ル

明治
年
月
日
起
草
日
發
浦

生
林
主
任

主
任
林

電送第 1831 號
明治 30 年 8 月 1 日 午後 3 時 3 分

外務省

本日午前日行ニ於テ
郵令付布見
送付ニ申送リテ
通口付書
おテ之ヲ
お子
ニ決
是
コリ
右ノ
趣
前
ニ
送
リ
テ
マ
シ

6-0005

0136

一併改換
南洋通信
三〇〇

明治 年 月 日
同 年 月 日
日 起 節
日 發 遣

定 止 候 學

次 日 林 氏

年 第 一 三 二 号

本日同業部發給之南洋通信

公布セラルル者動員ニ依ル 南洋通信

外務省

更ニ其ノ旨ヲ輕シ並ニ南洋通信ニ於テハ

道解路ノ経費ハ何様ニ考テ南洋通信

鐵道會社ノ事業ヲ進歩スルモノトシ

陸軍部中得テ之ニ充テ部下軍

隊ノ統率ニ委シテ之ノ監督ヲ出スル

所似ノ如キヲ統理シ何等ノ事モ

依リ清國政府ノ立派事務ヲ掌理ス

電送第 1834 號
明治 39 年 8 月 1 日 曜 日 曜 日

華印付

6-0005

この前日付は自前部は陸軍アラスカ
の自前部、トウ自前部、トウ自前部、
新便電信局、自前部、自前部、
方法院は自前部、自前部、自前部、
自前部、自前部、自前部、自前部、
月一日より、自前部、自前部、
右記の如く、自前部、自前部、

外務省

6-0005



明治二十九年八月八日接受

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

須知

受第一〇二〇〇號

明治二十九年八月七日

陸軍大臣寺内正毅

外務大臣寺内正毅

陸軍省 陸軍部

関東都督府官制發布ノ件ニ関スル都督府巡查者
守佐與令外ニ件初令制定ノ必要アリ別紙
ノ通達署ヲ以テ閣議提出案ニ付テ是等ノ
件ノ閣議提出案ニ付テ是等ノ件ノ閣議提出案
成否

陸軍

6-0005

0139

文書録

明治三十九年八月八日接受

明治三十九年八月八日

浄書入校正
明治三十九年八月八日發給

官

次

政務局長
人事課

主任

主任

内閣總理大臣宛

外務大臣

急

機密送第770號

関東都督府通信書記補

傳給件

外務省

関東都督府通信書記補の支給の

傳給件、關の如本勅令案相成

る様取可相成及勅令案及理由

書相添、以、請、照、裁、也

別添一切済

6-0005

明治 年 月 日
起草
日發達

主任

勅令案

外務省

朕聞東都督府通信書記補津結

伴ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治九年

大隈總理大臣 伊藤 賢二

外務大臣 大島 圭三 林 董

勅令第 号

勅令案
關東都督府通信書記補ノ月俸ハ二十五圓
以下十二圓以上トス

關東洲民政署

6-0005

0142

理由

通信書記補の通信書記タルノ候補者トシテ事
務ヲ練習セシムルモノニ付判任官俸給令ニ依ラズ
別ニ俸給額ヲ定ムルノ必要アリ内地ノ例亦斯ノ如
シ

關東洲民政署

6-0005

0143

勅令案

朕關東都督府通信書記補俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布

セシム

御名御璽

年月日

勅令第

号

關東都督府通信書記補ノ月俸ハ二十五圓以下十二圓以上

トス

陸軍

6-0005

文書課長

明治二十九年八月九日接受

明治二十九年

八月

九日

日發

明治二十九年八月九日發送



官

人事課

會計課

印

官

印

内閣總理大臣宛

大臣

機密送第 〃/〃 號

各廳在員ニシテ特別ノ技術ヲ要スルモノ

外務省

外月奉二十日下ノ支給ニ得ルモノ

閣議決定相成居ル如ク閣東洲

於テ諸物價ノ高貴ナル為メ右既定

俸給ヨリ到底適當ノ在員ヲ使用ス

工ト能ハシク付閣東部督府在員タル者

ニ持テ月奉率可ク支給シ得ルモノ

決定相成及該五名ハ閣議ヲ請フ也

6-0005

各廳雇員ニシテ特別ノ技術ヲ要スルモノ外月俸
二十圓以下ヲ支給シ得ルコトニ閣議決定相成候
處關東洲ニ於テ諸物價ノ高貴ナルコト内地ニ比シ六
割以上ニ達シ右既定ノ俸給内ニテ到底適當ノ雇員
ヲ使用スルコト能ハサルニ付關東都督府雇員タル者
ニハ特ニ月俸五十圓以下ヲ支給シ得ルコトニ決定相
成度此致閣議ヲ請フ

明治三十九年九月一日

關東都督男爵大島義昌

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

關東洲民政署

本邦人ニシテ統監府、理事廳及統監府通信
官署ノ雇員タル者、俸給ニ関スル件本
日勅裁ヲ經別紙、通閣議決定相成候間
玆般及通牒候也

明治三十八年二月廿五日

内閣書記官長 柴田宗門

(別紙)

本邦人ニシテ統監府、理事廳及統監府
通信官署ノ雇員タル者ニハ、特ニ月俸

内閣

五千円以下ヲ給スルコトヲ得

別紙農商務大臣請議雇員ニシテ特別ノ技術ヲ要セザル者ノ俸給ニ関スル件本日請議ノ通閣議決定相成候間此段及御通牒候也

明治三十一年七月廿七日

内閣書記官長武富時敏

法制局長官神鞭知常殿

別紙

雜給支辨ノ雇員ニシテ特別ノ技術ヲ要スルモノ、外月俸拾五圓以下ヲ支給シ得ルコト

内閣

ニ閣議決定相成タル趣明治二十九年八月内閣送第三一号ヲ以テ内閣書記官長ヨリ通牒相成候處尔来物價ノ暴騰更ニ甚シク一般生活ノ程度モ逐日上進ノ趨勢ヲ呈シ隨テ右既定ノ俸給内ニテハ今日適當ノ雇員ヲ使用シ得サル場合ニ立テ是ノ事務ノ進捗上少ナカラサル不便ヲ生候ニ付雜給豫算定額内ニ於テ支辨シ得ル限リハ一月金ニ拾圓以下ヲ支給シ得ルコトニ決定相成度此段至急閣議ヲ請フ

明治三十五年七月十五日

農商務大臣大石正巳

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

内

閣

6-0005

0149

事務録

第...

明治三十九年八月九日接受

明治三十九年八月十六日發遣

明治三十九年八月十日發總

以友親

事務録

主任

内閣總理大臣

外務大臣

急

機密送第...

関東都督府警察審定書

版制件

外務省

関東都督府警察審定書版制件
別紙教令發布相成大様所取計大度
教令案相添此改請閱議也

別紙教令案字添付

教令案附屬告一字ヲ取リ置キ原本送附

再但版制用原本送附

再...

明治 年 月 日
同 起 日
日 發 遣

主 任

敕令案

外務省

朕関東都督府警察官服制ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十九年 月 日

外務大臣 子爵 林 董

敕令第 号

6-0005

内閣秘書長 第72号 附局

関東都督府警察官服制勅令案別紙
及御用仕候係其筋、進達方可並御取計
相成度候也

明治三十九年七月二十日

関東總督男爵大島義昌

外務大臣子爵林董殿

關東洲民政署

6-0005

勅令第 辨

關東都督府警察官服制左ノ通定ム但シ現ニ巡査ニ給與セザル
制服ハ其ノ使用期內之ヲ著用セシムルコトヲ得

關東都督府警察官服制

名 稱	地質	帽						地質	鈕釦	袖章	襟章	製式	地質
		製式	徽章	徽章	襟章	襟章	襟章						
警 視	茶褐絨	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
警 新	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
巡査 部長	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
巡査 査	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

6-0005

0153

文書課長

明治二十九年八月十四日接受

明治二十九年八月十四日起草

明治二十九年八月十四日發送

急

會計課

會計課長

佐野

大關總理大臣

外務大臣

陸東州外在勤者特別手當支給

別紙

陸東州外在勤者特別手當支給の件

外務省

者之支給に特別手當の件に關し

勅令及市相成を據りて、御設計相成度
勅令案及提出書相添、比段請願書

七

別紙添付

6-0005

明治
同 年 月 日
起草
發達

主任

勅令第一〇一號

外務省

陸奥郡谷戸文書(陸奥州外)

在勤(書)特別平賞外裁可

明治九年八月二十七日

御旨

明治九年

大務大臣 寺島 謙吉

陸奥郡谷戸文書(陸奥州外)

6-0005

0156

勤令 二七

関東州外在勤者特別手当ニ係ルモノ

関東都督府文官ニシテ関東州外ニ在勤スル者ニハ
本俸十分ノ三以内ノ特別手当ヲ支給スルコトヲ得共、
支給ノ方法ハ関東都督府之ヲ定ム
前項ノ規定ハ巡查ニ之ヲ適用ス

関東洲民政署

6-0005



理由

關東都督府文官ニシテ關東洲外ニ在勤スル者ハ
址ハ遠ク長春ニ至リ又奉天安東縣間ノ僻地ニ居住
ヲ為サシムルマカラス是等ノ地ハ物價高貴其生計ノ
費用ヲ要スルコト之ヲ關東洲内ニ比シテ一層多キヲ
要スルコト明ナリ依テ本令ノ如ク洲外在勤者ニ特別
キ當ラズ給セントス

關東洲民政署

加

明治三十九年八月十五日發送

外務省

外務大臣官署

陸軍大臣官署

陸軍省

陸軍省 陸軍大臣官署 陸軍省 陸軍大臣官署 陸軍省 陸軍大臣官署

外務省

6-0005

郡令集

朕皇太子都督府付心者者守治与令り裁
可心者之り云布せし

律名 心者

心者

郡令加

心者

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

外務省

外月銀之十日心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

心者加 郡令加 心者加 心者加 心者加

勅令集
朕等奉天都督府文安公卿大臣等守
御令料
ノ儀ノ勅令ノ旨ニ之ヲ云フ也

所名 少卿

年月

勅令 天 云

宣旨等御守文安公卿大臣等守御令料
ノ旨ニ之ヲ云フ也
ノ旨ニ之ヲ云フ也

外務省

宣旨 勅令 宣旨等御守文安公卿大臣等守御令料
ノ旨ニ之ヲ云フ也

執事
朕等亦御留府職員の姓科を以て
シ裁可し等之に之を以て

氏名 以高

乙卯

初令

又此科を以て之を以て
前使、此科を以て之を以て
給る事、期及甘之を以て之を以て

外務省

ヲ定ム

6-0005

文書課長

再面

明治三十九年八月十四日接受

明治

同 年

八月

十五日

日 起 草

明治三十九年八月十五日發送

別紙

政務局長

主任

陸軍大臣

會計課

機密第一ノニニ號

陸軍大臣

打

外務大臣

急

關東都督府巡查者年終報告

公文書ノ關係件

外務省

關東都督府巡查者年終報告

府巡查者年終報告並同府文書及巡查者

中務省料及同府職員燃料支給ノ件

聖旨勅諭

三三〇號

關東都督府巡查者年終報告

公文書ノ關係件

6-0005

東洋の成敗は我々の手中に在り

如第... 按命ノ上内

...

...

外務省

6-0005

0164

別紙關東都督府職員旅費規則及御送
付候條公布方可然御取計相成度候也

明治三十九年 月 日

關東都督男爵大島義昌

外務大臣子爵林董

關東洲民政署

6-0005

0165

勅令 第三

關東都督府職員旅費規則

第一條 關東都督府職員公務に依り關東洲及清韓兩國内ヲ旅行スルトキハ別表定ムル所ノ旅費ヲ支給ス

第二條 勤續滿二年以上ニシテ廢官退官若クハ休職トナリ歸郷スルモノニ對シテハ内國旅費規則ノ定額ニ依リ舊勤務地ヨリ原籍地マテノ路程ニ應シ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

在勤中死亡シタルモノハ勤續年月數ニ拘ハラズ本條ニ準シ前項ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

關東洲民政署

第三條 支度料ハ關東都督府赴任ノ時ニ限リ之ヲ支給ス

第四條 關東都督府職員ニシテ赴任ノ時妻ヲ携行シ若クハ任地ニ於テ妻ヲ呼寄セタルモノハ一回限リ内國旅費規則ニ依リ定額ノ汽車汽船及車馬賃ヲ支給ス

第五條 關東都督ハ旅費ノ定額ヲ減少シ若クハ其一部ヲ支給セサルコトヲ得
旅行ノ性質ニヨリ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ支給スルコトヲ得

第六條 内地關東洲間ニ於ケル旅行ニ對シテハ内國旅費規則ニ依リ定額ヲ支給ス

第七條 囑託員雇員其他本規則ニ明文ナキ

モノノ旅費ハ別表ニ準シ関東都督之ヲ定ム
第八條 旅費支給ノ方法ハ本規則ニ定ムルモノ
ノ外内國旅費規則ヲ準用ス

附則

第九條 滿洲ニ在勤シタル官吏ミレテ関東都督
府官制施行ノ際同府職員ニ任命セラレタル
モノ及同職員ミレテ現ニ妻ヲ携行セルモノハ
赴任當時ニ於ケル前官相當ノ支度料及第四
條ニ規定シタル旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十條 本規則ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ
施行ス

關東洲民政署

別表

區分	汽車賃 一哩二付	汽船賃 一海里三付	車馬賃 一里三付	日當 一日二付	宿泊料 一夜三付	食卓料	支度料
親任	二十五匁	二十五匁	一匁五釐	六匁	七匁	一匁七釐	六百匁以內
勅任	二十匁	二十匁	一匁	四匁	六匁	一匁五釐	四百匁以內
奏任	十五匁	十五匁	八釐	三匁五釐	五匁	一匁二釐	二百五十匁以內
判任	十二匁	十二匁	六釐	二匁	四匁	九釐	百五十匁以內

關東洲民政署

6-0005

0168

理由書

関東都督府職負ノ関東州及清韓兩國ノ旅行ハ諸般ノ事情到底内國旅費規則若ハ外國旅費規則ニ據ル能ハズ是レ本規則ノ制定ヲ要スル所以ナリ

關東洲民政署

6-0005

0169

當府判任文官以上、旅費規則ニ就テハ別紙
ノ通勅令案及進達候處囑託員以下職員
ノ内地旅行ニ就テハ内國旅費規則ノ規定ニ依
リ貴大臣ニ於テ制定可相成義ニ候處關東
州内ニ於テハ同旅費制定、必要ニ有之候次
第三府便宜上右権限當府ニ委任相成候様
大藏大臣一御協議相成度以段及稟申候也
明治三十九年 月 日

關東都督男爵大島義昌

外務大臣子爵林 董殿

四十三年五月一日 録

關東洲民政署

文書

明治三十九年八月十八日接受

明治三十九年八月十八日發達

大臣 明治 廿九 年

八月 廿六 日

政務局長 通商局長 人事課長

要再

外務大臣

内閣總理大臣

機密送案ノ6號

閣東都督府職員旅費規則制定ノ件

閣東都督府職員旅費規則制定ノ件

有之候案別紙業文ニ通勅令ヲ公布

外務省

相成ル様致度別紙勅令業別紙

案議、提出為修

記

6-0005

朕関東都督府職負旅費規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

明治三十九年 月 日

~~内閣書記官長~~

林 外務大臣

(附録書部より提出票係付)

外務省

6-0005

馬

機密送第七七号

日乃三月九日午後八時

外務大臣

内閣總理大臣

文官懲戒令中改正件

文官懲戒令中改正件、件、關之別紙表
令、若布相成、多様、以、計、相成、度、較
令、案、相、係、此、段、請、閣、議、也

外務省

別紙表令案管席台、事

予、其、善、也、右、別、三、号

善也右別

6-0005

朕起密顧問、諮詢ヲ後々文官總
戒令申改訂、件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
布セシム

沛名 沛璽

明治廿九年 月 日

内閣總理大臣任事西園寺公

教令第 號

文官官制戒令申改訂通改訂ス

外務省

第二十二條市四等、次々、第一号ヲ追加ス

一 關東都督府

第二十三條但書中臺灣總督府ノ下ニ及

關東都督府ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十九年 月 日ヨリ之ヲ

施行ス

勅令案

文官懲戒令中左通改正ス

第二十二條第四号、改正、第一号ヲ追加ス

一 關東都督府

第二十三條但書中、支那總督府ノ下

ニ「關東都督府」ヲ加フ

附則

本令ハ明治廿九年九月一日ヨリ之ヲ

外務省

施行ス

至五
初覽
新官制

大藏省

昭和九年八月二十日接獲

93

明 年 月 日

日 起 時

八月廿一日發浦

要再題

政務局長

會計課長

主任

次官

通商局長

人事課長

外務大臣

大藏大臣

関東都督府賜批首以下旅費規則制定方

之件

関東都督府判任文官以上ノ旅費規則

四十二年五月十日 記録編纂接受

外務省

制定ニ就テハ別勅令公布方函請ニ提出

致置候得共口府賜批首以下ノ関東列内ニ於

内國旅費規則ノ施行

ケル旅費規則ニ亦制定ノ必要有之右ノ貴大

臣卜指定可致言上之候得共口列内ニ於テ特別

ノ事情ニ可有之介右旅費規則制定ノ届同

奉都督ニ各々致意上在事等口同意相成度以

取及口招函也

6-0005

七

文書

明治廿九年

八月廿三日

明治二十九年八月二十二日

官

郵務局長

出

手

郵務局

大

水

郵務局

初等教育課

外務省

来九月一日より関東都督府

に送るに付初等教育課より関東都督府

に送るに付初等教育課より関東都督府

に送るに付初等教育課より関東都督府

に送るに付初等教育課より関東都督府

に送るに付初等教育課より関東都督府

に送るに付初等教育課より関東都督府

6-0005

明治三十九年八月廿二日 起草
同日 三月 發給

明治三十九年八月廿二日 起草

支那

在滿洲

外務大臣

領事

廿九年八月廿四日

外務省

在滿洲帝國領事館下關東州以
外、鉄道附屬地内ニ於テハ都督府所
屬警察官下ノ關係ニ關シテハ進テ詳細
ノ規定ヲ設ケテ其苦勞所得及右規定右
等ノ取込ハ右取込右記條項ニ依リ
右關係ヲ規整セシメテ之ヲ付テ右様
等知事等及此取込進取也

引当字送

6-0005

明治三十九年八月廿二日 通商局 音發浦

明治三十九年八月廿二日 外務省

友重

在満洲

外務大臣

大領事

あ

外務省

外務省

在満洲帝國領事館ト関東州以
外ノ鉄道附屬地内ニ於ケル都督府所
屬警察官トノ關係ニ関シテハ進テ詳細
ノ規定ヲ設ケテ其旨ヲ得テ右規定右
等ノ旨ヲ述ビテ取敢テ左記條項ニ依リ
右關係ヲ規整スルニ付右様書
等知悉奉渡此取テ進メ也

外務省

閩東州以外 鐵道附屬地内ニ於テ
者并テ有テ南滿洲鐵道附屬地内ニ於テ

一 都督府及領事館ニ鐵道附屬地内ニ

接觸スル樞要ノ地ニ勤務スル警察官

ニ對シ一定ノ委任事項ヲ定ムルコト

都督府及領事館ニ於テ委任事項ヲ

定ムタルトキハ直々ニ之ヲ相互及外務省ニ

通報スルコト

鐵道附屬地内ニ於テ逮捕スル犯罪人

人ニ對シ清國人其他ノ外國人ニ傳ハシメ

都督府及領事館ニ直々ニ報告スルコト

事務勤務ノ外務省警察官及巡査員

引渡シタルレ但シ該人以外ノ違警罪人又

ハ其ノ人ニ對シテ限リテ

二 都督府及領事館ニ在滿洲帝國領事館外務省

警察官及領事館所屬警察官ニ對シテ前項

ノ委任事項ニ付テハ其ノ他ノ緊急

ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ他ノ緊急

ニ對シテ警察官ハ直々ニ之ニ應ジ必要ノ措

置ヲ執ルルキコト

寫

核査送着五人係

日正辛卯年八月廿三日

林久務大臣

在清

林久使殿

貴邦政府設置之案に於ては
各領事、訓令件

未九月十日、貴邦政府設置
可相成、付別紙甲乙丙午、所載、

外務省

事項に就て、同府及同府法院に直
接通知、是等之旨、在清當該各
領事、更に訓令、及び書文、付、回
在滿洲、各領事、對、別紙丁号
之通、及訓令、宜、宜、其、様、以、り、申、上、
お取次、成、上、申、上、候、具

(別紙甲乙丙午、各領事、對、申、上、之、旨、に、付、)

丁号、ハ、貴邦、在、滿洲、各、領、事、の、字、付、乙、行、也、)

原書ハ、一、部、外、務、省、に、在、り、同、府、法、院、に、在、り、
候、事、に、付、別、紙、甲、乙、丙、午、各、領、事、に、付、申、上、之、旨、に、付、

都督府長官

特別委任事項

- 一 都督府租借地内ニ於ケル海外事項ニ付
- 二 都督府租借地外ノ鐵道附屬地ニ於ケル海外事項ニ付
- 三 前二項ニ掲ケル事項ニ付

勅令

後區附屬地ニ於ケル事項ニ付テ

支那地方官憲ト交渉スルコト

附屬地
支那人裁判權ハ都督府法院ニ在リ

以下各紙

鐵道附屬地ニ於テル事項ニ付テハ都督
ハ領事ヲシテ清國地方官憲ト交渉セシム
ルモノトス此ノ場合ニ於テ領事ハ都督ノ
指揮ヲ受クヘシ

右外務大臣ヨリ領事ニ訓令セララル
コト

關東洲民政署

6-0005

0184

特別委任事項

一 租借地ト清國領土トノ境界ニ於ケル
事項ニ関スル交渉事務但シ重大ナル
事項ニ付テハ豫メ外務大臣ノ指揮ヲ
受ケルコト

二 帝國領事館又ハ分館ナキ地ニ於テ鐵
道附屬地ニ於ケル事項ニ関シ急速交渉
ヲ要スル事項但シ事後直チニ交渉ノ
顛末ヲ外務大臣及當該領事館ニ通
報スルコト

關東洲民政署

(第一)左ニ掲クル事項ハ即時報告ヲナスコト

一、都督府ニ於テ命令ヲ發シ又ハ例規ヲ設ケタルトキ

二、兵力ヲ使用シタルトキ

三、外國領事トノ交渉其他外國人ニ関スル事項

四、其他重要ナル事項

(第二)左ニ掲クル事項ニ付テハ三箇月毎ニ報告ヲナスコト

關東洲民政署

一、諸般政務施行ノ成績

二、管轄區域内一般ノ情況

三、鐵道ノ狀況概要

(第三)左ニ掲クル事項ニ付テハ外務大臣ノ指揮ヲ受クルコト

一、條約ノ解釋及執行ニ関スル上疑義ニ涉ル事項

二、清國地方官又ハ外國領事官トノ重要ナル交渉事務ニシテ清國ノ時日アルモノ

三、其他ノ重要ナル事件ノ處理ニ関スル事項

6-0005

關東洲以外ノ鐵道附屬地内ニ於テ
ル都督府所属警察官ト在滿洲帝國
國領事館トノ關係ニ関スル及規
定

一 鐵道附屬地樞要ノ地ニ勤務スル都督
府所属警察官若キ者カシテ外務省警
部又ハ巡查ヲ兼任セシメ在滿洲帝國
領事館勤務ヲ命スルコト

二 都督府及領事館ハ鐵道附屬地ト接觸
スル内樞要ノ地ニ勤務スル警察官ニ對

關東洲民政署

シ一定ノ委任事項ヲ定ムルコト

都督府及領事館ニ於テ右委任事項ヲ
定メタルトキハ直ニ之ヲ相互及外務省及

在滿洲帝國領事館ニ通報スルコト

三 鐵道附屬地内ニ於テ逮捕セラレタル犯

罪人ハニシテ其帝國臣民タルト清國人

其他ノ外國人タルトモ同ハニ係ルトキハ都

督府所属警察官ヨリ直ニ之ヲ最寄地

ニ在ル當該領事館勤務ノ外務省警部

又ハ巡查ニ引渡スルコト但歐米人以外ノ違警

罪又ハ日本人ノ犯罪ハ以テ限ニアラズ

四、都督又ハ在滿洲帝國領事ヨリ外務省警
察官又ハ都督府所屬警察官ニ對シ第
二及第三ニ定メタル事項其他緊急ヲ
要スル事項ニ付處分ヲ求メタルトキ
ハ相互警察官ハ直チニ之ニ應シ必要
ノ措置ヲ執ルヘキコト

關東洲民政署

6-0005



丁

戊

己

(第一) 都督府及在滿洲領事館間ニ

於ケル直接通信事項

一 南滿洲鐵道線路ノ保護及取締ニ

關スル事項

二 南滿洲鐵道會社ノ業務監督ニ關

スル事項

三 警察ニ關スル事項

四 衛生ニ關スル事項

五 戶籍ニ關スル事項

六 産業貿易ニ關スル事項

七 其他特ニ急速通信ヲ要スル事項

滿洲民政部

(第二) 都督府及在清國領事館

間ニ於ケル直接通信事項

一 警察ニ關スル事項

二 衛生ニ關スル事項

三 戶籍ニ關スル事項

四 産業貿易ニ關スル事項

五 其他特ニ急速通信ヲ要スル事項

(第三) 都督府法院及在清國領事館

滿洲民政部

一、許答狀、問ニ於ケル直接通信事項
 二、判決決定命令及通知送達
 三、都督府法院先檢察局又ハ領事館ニ
 於テ現ニ取扱フ許認事件ニ付特ニ
 急速通信ヲ要スル事項

東洋文庫
 文庫
 文庫

大正六年七月五日印行

6-0005

0190

○ 外務省上奏

特別委任事項

一、租借地、清土領土、境界ニ於テ
ニ事項ニ關スル交渉事務但シ
重大ニ事項ニ付テ豫メ外務大
臣、指揮ヲ受ルニテ

二、帝土領事館ニ於テ領事館ニ於テ
鑄造所屬地ニ於テ事項ニ關シ
急速交渉ヲ要スル事項但シ事
後直ニ交渉、類案ヲ外務大
臣及當該領事館ニ通知スル

外務省

6-0005

(一) 在：指之事項、即時報告ヲ行フ
 一、都督府に於て命令シテ者シ又ハ例
 規ヲ設ケルルキ
 二、兵力ヲ使フシタルキ
 三、外島領事、交渉その他外人ノ関
 与事項
 四、其他重要ナル事項
 (二) 在：指ルル事項、付テ三ヶ月毎ニ
 報告ヲ行フ

外務省

一、諸般行政執行ノ成績
 二、管轄区域内一般ノ情况
 三、鐵道ノ状況概要
 (三) 在：指ルル事項、付テ外務大臣
 ノ指揮ヲ受ケル
 一、條約ノ解釈及執行ニ関スル事項
 二、清島地方外交ハ外務領事官トシテ
 重要ナル交渉事務ニシテ清島ノ時
 日ヲ見ル
 三、其他重要ナル事件ノ處理ニ関スル事項



外務省

通商手続

ノ手続

外務省

關東河以外ノ鐵道附屬地内ニ
於テハ都督存所属ノ官署
在滿洲省中馬領事館トシテ
關係ニテ其ノ規定

一 鐵道附屬地内極小ノ地ニ勤務
スル都督存所属ノ官署官署長
名ヲシテ外務省發給シ又ハ出費
ヲ兼任セシメ在滿洲省中馬領事館

(才二) 都督府及在滿洲領事顧問

於此直接通商事項

一、南滿洲鐵道沿路、保護及取締

二、警備事項

二、南滿洲鐵道會社、業務監督

三、警備事項

三、警察、關之事項

四、衛生、關之事項

五、戶口籍、關之事項

外務省

六、產業貿易、關之事項

七、其他特、急速通信、要之事項

(才三) 都督府及在清通商領事顧問

於此直接通商事項

一、警察、關之事項

二、衛生、關之事項

三、戶口籍、關之事項

四、產業貿易、關之事項

五、其他特、急速通信、要之事項

(才三) 都督府法院及在清玉傳事依
問ニ於テ直接通信事項
一、訴答状、召喚状、及呼出状、送達
二、判決、決定、命令及通知、送達
三、都督府法院並換寫局、於了
現ニ取扱フ訴訟事件、存付、急
速通信ヲ要スル事項

外務省

6-0005

196

松本府中道

外務省

6-0005

0199

大書院

大書院

明治三十九年八月二十四日

明治三十九年八月二十四日

大書院



生任

由書記長長宛

次官

添付
省長大臣より内閣総理大臣宛別紙

照会、貴省の諸勅令、貴省都督府官制

官制に付、本年一月より官制の要に於て、

外務省

未日迄は不布、特、少部、長、官、宛、紙

大書院

6-0005

文書課長

明治廿九年

八月

廿三日

明治三十九年八月二十五日接受
明治三十九年八月二十七日發遣
主任

機密送第八一號

西園寺公理

林古少

急

各省之...

外務省

九月十日閣議決定...

之旨付付所轄事務其他...

制定之規定...

トモ相續...

別白中...

...

...

...

6-0005

升也

副記

(前奉行)

一 以四督規之

(甲号)

(后上)

一 特別事務規之

一 事務規之 (乙号)

(河内各所)

一 河内各所事務規之

一 河内各所事務規之 (丙号)

(都督)

一 都督事務規之

外務省

一 河内各所事務規之 (丁号)

一 河内各所事務規之 (戊号)

一 河内各所事務規之 (己号)

(事務)

一 事務規之

(事務)

一 河内各所事務規之 (庚号)

一 河内各所事務規之 (辛号)

在棉田承寺主寺取
此如中世

在河内各原寺氣訓寺
別我部知寺或省信寫信

(在奉天河内各原寺氣訓寺
別我部知寺或省信寫信)

外務省

6-0005

大書院
明治二十九年八月二十二日接受
九月二十五日接受

明治二十九年九月一日 日越草 月發付トナム

方九
同
水

水

生

生
主付
十石

通商局

大島初智

林五五

監督規程
江野町長

外務省

関東初智村に在りて四保及
五保に依り閣下、如右に監督
ヲ承テ諸般之事務ヲ統理シ且ツ
特別之委任ニ依り諸般之事務
ノ全權事務ヲ掌理セラルル
ト相成推知右ニ閣下之政務
規定別紙中甲号ノ通相定メ且ツ

6-0005

清少卿乃古之遺ト、文少事務ニ付テハ
別帝乙為^{江蘇}出武進政ニ向テ
決氣如美為若也(外務省)

外務省

6-0005

0206

甲

付テハ 報 告 ヲ ナ ス ト

第一左ニ掲クル事項ハ即時報告ヲナスト

一、都督府ニ於テ命令ヲ發シ又ハ例規ヲ

設ケタルトキ

二、兵力ヲ使用シタルトキ

三、外國領事トノ交渉其他外國人ニ関スル

事項

四、其他重要ナル事項

第二左ニ掲クル事項ニ付テハ三箇月毎ニ

報告ヲナスト

一、諸般政務施行ノ成績

二、管轄區域内一般ノ情况

三、鐵道ノ状況概要

第三左ニ掲クル事項ニ付テハ外務大臣ノ

指揮ヲ受クルト

一、條約ノ解釋及執行上疑義ニ涉ル事

項

二、清國地方官又ハ外國領事官トノ重

要ナル交渉事項

乙号

特別委任事項

一、租借地、清國領土、境界ニ於ケル
 事項ニ関スル交渉事務

二、帝國領事館又ハ分館ナキ地ニ於テ鐵
 道、附属地ニ於ケル事項ニ関シ急速ニ交
 渉ヲ要スル事項但シ事後直チニ交
 渉ノ顛末ヲ外務大臣及當該領事
 館ニ通報スルコト

外務省

6-0005

0208